

第5章 特別活動

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本教育課程評価資料は、「中学校学習指導要領」及び「埼玉県中学校教育課程編成要領」の趣旨に基づいて作成した。また、平成24年度に中学校生徒指導要録が改善されることに伴い、各学校が改善の趣旨を生かして学校の実態等に即した特別活動の評価について検討し実施する際の具体的な資料となるよう配慮した。

作成に当たっては、特別活動の目標及び新たに設定された各活動・学校行事の目標に照らし、評価の観点及びその評価規準例を示すとともに、指導計画、指導方法、個人及び集団の変容を評価の対象とした。特に、個人及び集団の変容にかかわる評価は、学級や学校の生活づくりの中で、集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築き、人間としての生き方についての自覚を深め自己を生かそうとする進歩の状況、努力や意欲に着目することとした。

特別活動における評価は、集団活動を通して、活動のねらいを達成するため計画や方法、集団における役割分担、集団全体の変容などについて評価することが大切である。その際、指導の成果だけでなく指導の過程における生徒の努力や意欲などを、多面的、総合的に評価することに努め、指導と評価の一体化を図るよう工夫することが必要である。

各学校においては、さまざまな資料を収集して、可能な限り総合的、客観的な評価を行い、「生徒の活動意欲の向上に生かす評価」や「指導の改善に生かす評価」となるよう検討するために本資料を活用願いたい。

2 取り上げた内容

(1) 「第2 特別活動における評価」では、特別活動の評価における基本的な考え方と特別活動を通して育成したい資質や能力についての評価の観点例及び評価規準例を、各学校において定めるための参考となるよう提示した。

具体的には、学級活動17項目の評価規準例、生徒会活動の五つの内容の評価規準例、学校行事の五つの内容の評価規準例を示した。中でも学級活動は、特別活動の三つの内容の中心的な活動であり、学級経営の充実を図ることにも関連が深い活動である。そのため学級活動においては、実践する上で特に重要な役割を担う学級活動委員会の評価規準例及び学級活動の指導と評価の計画例を示した。

(2) 「第3 各内容の指導と評価の実際」では、各内容ごとに、活動の過程と評価の流れを図式化するとともに、「評価を指導に生かすポイント」として、指導計画、指導方法、集団及び個人の変容について示した。その際、生徒一人一人の活動状況とその発達や変容及び集団の発達や変容の評価を中心に取り上げ、指導と評価の一体化を図った。実際の評価の事例では、活動の流れに沿って自己評価や他者からの評価事例を示し、総合的に評価するための参考になるよう配慮した。

「1 学級活動の評価例」においては(1)(2)(3)の内容別に取り上げ、「2 生徒会活動の評価例」では委員会活動と生徒評議会との関連、充実や各学級との関連、充実について、「3 学校行事の評価例」では、儀式的行事、旅行・集団宿泊的行事について取り上げ、各学校が実践するために参考となるように内容の選定を配慮した。さらに評価例については、各活動、学校行事ともに評価カードの例、評価記録の活用例等を具体的に提示し、活用上の留意点を示した。

「4 特別活動の評価と中学校生徒指導要録」では、「特別活動の記録」の欄について、記入上の留意点や記入のために資料を収集する補助簿の例とその活用の仕方について考え方を示した。

3 実践化の配慮事項について

特別活動における自己評価資料を扱う際には、生徒の自己評価をそのまま受け取るのではなく、指導に生かす上での有効な資料を捉える視点をもって活用することが大切である。また、生徒が自らの活動状況や課題に気づき、学習意欲や活動意欲が高まるよう自己評価等を工夫することが必要である。

特別活動では、生徒一人一人の態度や行動の変容が評価の中心的な対象となるが、多くの教師による評価が反映されるように、学校全体で指導と評価の一体化を図り、情報を緊密に積み重ねていく体制づくりが求められる。

そこで、本評価資料を参考に、各学校では、学校の実態と生徒の発達の段階に即した評価体制を検討し、確立するとともに、評価の観点及び評価規準を定め、全教師の共通理解の下、継続的、客観的に生徒一人一人のよさや可能性を生かすような評価の充実に努めることが大切である。

第2 特別活動における評価

1 特別活動における評価の考え方

今回の学習指導要領「特別活動」の改訂では、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るといふ特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視している。また、学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれに目標が定められた。この趣旨を踏まえ、特別活動で育てたい資質や能力を明確にした評価と指導の改善が重要である。

特別活動の評価は、生徒一人一人の活動の中に見られるよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、教師の指導の過程や成果を客観的に評価し、生徒の自己理解と意欲の向上を図り、また、それを指導の改善・充実に生かすことが必要である。

広い意味でとらえる特別活動の評価としては、主に次の(1)～(4)の四点が考えられる。

(1) 指導計画についての評価

教師の指導計画や生徒の活動計画については、以下の視点で評価し、計画の見直しを図っていくことが大切である。

- 各活動及び学校行事のねらいの達成のために作成されている全体計画や年間指導計画に即している。
- 学校や学年の実態や生徒の発達の段階が考慮されている。
- 生徒の自主的、実践的な活動が助長されている。
- 各教科、道徳及び総合的な学習の時間などとの関連が図られている。
- 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設などの活用が図られている。

(2) 指導方法についての評価

指導方法については、集団及び個人を通しての具体的な活動の過程における状況を中心に、実践の場面に即して教師の指導の内容と方法を評価する。その際、教師の適切な指導の下に活動が行われていたかが重要なポイントとなる。

(3) 一人一人の生徒の活動状況とその発達や変容についての評価

個人の発達や変容については、生徒の活動の結果だけでなく活動の過程における生徒の意欲や努力などを積極的に認め、生徒のよさを多面的・総合的に評価し、生徒の活動意欲を喚起する。そのために学校として教師間の協力体制を整備、充実することが大切である。また、生徒自身の自己評価や生徒間の相互評価等についても十分に活用を図り、評価の方法を一層工夫する。

(4) 集団の状況とその発達や変容についての評価

生徒の集団の発達や変容についての評価は、集団活動を特質とする特別活動固有の評価である。望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築くことを目標としている特別活動においては、望ましい集団活動が活動の基本的な条件であり、目標でもある。集団の発達や変容を適切に評価し、指導の改善に結び付ける。

2 評価の観点の設定について

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、特別活動の充実が学校生活の満足度や楽しさと深くかかわっているが、他方、それらが子どもたちの資質や能力の育成に十分つなげていない状況があると指摘された。今回、特別活動の評価において各学校で評価の観点を定めることとされたのは、「子どもたちの資質や能力の育成につなげていくため」である。この趣旨を踏まえ、特別活動及び各内容の目標を達成するために適切な評価の観点を定め、指導と評価の改善に努めることが必要であり、国から三つの評価の観点が例示されている。

○ 評価の観点及びその趣旨（例）

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
趣旨	学級や学校の集団や生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

特別活動では教師による観察法による評価が中心となるため、思考・判断・表現・技能について、分けて評価することが難しく、表現・技能について実践として例示された。各学校においては、全職員で「特別活動でどんな子どもを育てたいのか」を議論し、本県の資料等を活用しながら評価の観点を明確に設定することが重要である。

特別活動の評価に当たっては、各活動・学校行事の内容ごとに生徒の活動の状況について評価するものである。各学校では、各内容ごとに具体的な評価規準を明確にして、評価の充実を図ることが大切である。

3 各活動・学校行事の評価規準及び評価計画作成の留意点について

各活動・学校行事の評価規準に盛り込むべき事項が国から例示されているが、本資料では、各学校において指導計画を作成する際の参考として、内容ごとの評価規準例及び評価計画を作成する際の留意点を示した。

また、学級活動においては、教師の適切な指導の下に学級活動委員会を設けて実践する必要があることから、学級活動委員会の評価規準を例示した。

(1) 学級活動

ア 各活動内容

	活動内容	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
(1) 学級や学校の生活づくり	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	人間関係や生活上の様々な問題について、生徒一人一人が集団の一員としての自覚と責任感に基づき、協力して解決していこうとしている。	親睦を深める場について考え、諸問題の解決のために役割を分担し合って進め実践している。	学級や学校生活の充実・向上にむけて、グループや全体での話し合い、討論などによって解決する仕方を理解している。
	イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理	学級の全員が互いの個性を尊重しながら、何らかの役割を分担して協力し合おうとしている。	学級の全員が、自己の役割に対する責任と喜びを感じ、よりよい学級にするよう創意工夫して進め実践している。	学級としての目標や組織をつくる必要性やねらい等、十分理解している。
	ウ 学校における多様な集団の生活の向上	多様な集団における望ましい人間関係を築きながら、様々な集団生活への適応を図るとともに、それらの活動を通して学校や学級での生活を充実させていこうとしている。	学級と異なる学習集団、生徒会活動や学校行事で組織される集団、部活動など任意の集団の中で、望ましい人間関係を築いている。	生徒会活動や学校行事への参加や協力、異年齢集団の意義などについて、生徒相互の話し合いや体験発表を通して理解している。
(2) 適応と成長及び健康安全	ア 理春期の不安や悩みとその解決	自分の不安や悩みを見つめながらも、その解決を目指し、夢や希望をもってたくましく生きていく態度をほぐくみ、行動力を高めていこうとしている。	入学や進級の際のオリエンテーション、人間関係の悩みや性に関する悩みについて、教師の十分な配慮の下、生徒たちが共に考え、判断し、実践している。	不安や悩みとその解決方法について、解決の方法を見いだしている。
	イ 自己及び他者の個性の理解と尊重	自己の個性を見つめるとともに、他者の個性を理解し、互いに話し合いながら豊かな人間関係をほぐくんでいこうとしている。	自己の個性や適性について考え、他者の個性を理解し尊重している。	グループや学級で話し合う活動の他に、教育相談やカウンセリングの手法を活用し、自己理解・他者理解を深めている。
	ウ 社会の一員としての自覚と責任	社会生活上のルールやモラルの意義について考え、社会生活を営む上で必要なマナーについて体験的に習得していこうとしている。	集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながらそれぞれの責任を果たせるよう考え、実践している。	ルールやマナー、権利と義務などを話し合い、正義感や公正さを重んじる心、自律・自製の心の大切さを理解している。
	エ 男女相互の理解と協力	男女相互の理解を一層深めるとともに、人間として互いに協力し尊重し合おうとしている。	人間として男女が互いに協力し合い、尊重し合うことや、家庭や社会における男女相互の望ましい人間関係の在り方などについて考え、実践している。	新聞やテレビ等の資料をもとに話し合いや討論を行い、男女相互の理解と協力について理解を深めている。
	オ 望ましい人間関係の確立	より広い意味での人間関係の在り方を考え、様々な集団の中で望ましい人間関係を形成していこうとしている。	学級、学年だけでなく、生徒会や地域の集団などの活動において、望ましく円滑な人間関係の在り方について考え、判断し、実践している。	体験発表を取り入れた話し合い、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動を通して、望ましい人間関係の在り方について理解している。
	カ ボランティア活動の意義の理解と参加	ボランティア活動の意義を理解することによってボランティア精神の涵養を図り、自発的な参加への意欲を高めようとしている。	ボランティア活動の意義について理解を進め、学校内や地域で可能なボランティア活動体験を企画し、実践している。	生徒会活動や学校行事での体験や学習を機に、ボランティア活動の基本的性格について理解している。
	キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	心身の機能や発達、心の健康についての理解を深め、積極的に健康の保持増進を目指そうとしている。自分の生活行動を見直し、自ら安全に配慮し、危険を予測できる力や的確に行動できる力を高めていこうとしている。	生活習慣の乱れやストレスへの対処方法など自己管理について考え、実践している。事故や災害時の安全に関することについて考え、対処方法について実践している。	実践力の育成につながる話し合いを通して自らの健康について理解を深めている。安全マップの作成や実技を通じた学習から安全や危険予測について理解している。
	ク 性的な発達への適応	人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方について理解し、適切な行動をとろうとしている。	思春期の心と体の発達や性情報への対応を考え、発達段階に応じた適切な対応を実践している。	資料をもとにした話し合いや専門家の講話を聞くなどの活動を通して、性に対する正しい理解をしている。
	ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	自分の食生活を見直し、改善して望ましい食習慣を形成し、食事を通して好ましい人間関係や明るい社交性をはぐくもうとしている。	給食の時間は楽しく食事をすることや栄養の偏りのない食事のとり方を考え、実践している。	栄養教諭の話や聞くなどの活動を通して、自己の健康に配慮した食生活を営めるよう理解している。

(3) 学業と進路	ア 学ぶことと働くことの意義の理解	自分のよさや得意なことを伸ばすために勉強する、自己を高め充実した人生を送るために学ぶ、または自分の将来の夢や希望を実現するために学ぶなどの観点から、学ぶことと働くことの意義について積極的に考えようとしている。	中学校入学当初や進級時、各教科の授業開始時期に、学ぶことの意義を働くことの意義と関連させながら考え、職業や仕事、将来の進路について考え、判断し、自己実現に向けて実践している。	保護者や卒業生など自分の身のまわりの人、地域の職業人などの体験談を取り入れながら、考えをまとめ、発表し合い、話し合いを通して、学ぶことと働くことの意義について理解している。
	イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用	学び方を学び、勉強することの楽しさを感じながら、自分にふさわしい学習方法を見だし、積極的に学習の悩みを克服しようとしている。学習に意欲をもって取り組み、学校図書館を積極的に活用しようとしている。	不得意教科の克服や自分にふさわしい学習方法、教科学習での悩みを出し合いながら、その解決のために各自ができることについて話し合い、実践している。	意欲的に取り組めた教科等の学習について話し合い、学校図書館を自主的な勉強の場としてどのように利用したか話し合うことで、自主的な学習態度と学校図書館の利用方法について理解している。
	ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用	将来の生き方や進路との関係で自分を知ることができ、人の生き方や進路に関する興味や関心を広げるとともに、当面する進学や就職にかかわる情報を収集、活用して、当面する進路に関する理解を深めようとしている。	生徒同士で互いのよさを見つめ合い、確かめ合い、職業適性検査等を活用して、個性を生かす職業について考え、自分にふさわしい進路選択を考え、実践している。	自分自身を見つめる活動や友人への理解を通して、客観的に自分を理解している。進路に関する情報を収集し、整理し、進路情報の活用について理解している。
	エ 望ましい勤労観・職業観の形成	様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度をもとうとしている。	自己と社会とのかかわりを考え、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうと、勤労や職業について理解を深めるよう実践している。	働く意義と目的、身近な職業と職業選択について、調査やインタビューをもとに話し合い、発表やディベートから様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解している。
	オ 主体的な進路の選択と将来設計	自分の将来の生き方や生活について夢や希望をもつことができ、また、それを実現するための進路計画を立て、自らの意志と責任で生き方、進路を選択しようとしている。	将来設計を進路計画として立案し、進路選択にあたって、どのように行動すべきかなど話し合い、考えた行動目標の実現に向かって実践している。	地域の職業人による講話やその感想文の作成や発表、ライフプランの作成や進路計画の立案を通して、自分の将来の進路選択の方法や実現するための方法について理解している。

イ 学級活動委員会

評価の観点 内容	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
(1) 学級や学校の生活づくり	学級や学校での生活にかかわる諸問題を収集し、議題の設定や活動計画の立案を意欲的に進めようとしている。	予想される活動に対して見通しを立て、活発な話し合いが行われるよう計画を立て実践している。	話し合い活動が活発に行われるような話し合いの進め方、活動計画の立て方を理解している。
(2) 適応と成長及び健康安全 (3) 学業と進路	教師の指導計画の下、アンケートや資料づくり等の活動に意欲的に参加しようとしている。	教師の指導計画の下、共通の問題について、一人一人のよさを生かしながら話し合いが行われるよう進めている。	教師の指導計画の下、集団思考から自己決定への流れが円滑にいくよう、アンケートの収集や提示方法について理解している。

ウ 学級活動の評価計画作成の留意点

学級活動については、日常の学級の生徒の実態を十分に把握し、それに即した指導を行い、学級担任が指導を担当し、学級経営との関連を図って指導の充実にも努めることが必要である。したがって学級活動の評価は、主に学級担任が評価することになるが、生徒による自己評価や生徒相互の評価を活用し、各学級で作成する年間指導計画に基づいた評価計画により、集団及び個人の発達や変容について適切に評価する。

ここでは、1時間ごとに三つの観点で評価する例を示したが、すべての時間で三つの観点を評価する必要はない。

月	題材	具体的な活動内容	集団生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
4月	中学生になって (2)オ	・自己紹介ゲーム等を活用するなどして、和やかな雰囲気づくりを行う。 ・事前アンケート（中学生生活への期待、不安）をもとに、共通の問題としてまとめる。 ・グループごとにその解決方法を上級生や身近な人に取材する。	新しい学級に対する関心を持ち、意欲的に中学校生活を送ろうとしている。	中学生としての自覚を持ち、中学生としての理想の姿を考え、決意を新たに目標を立て、実践している。	中学生として、学級や学校の生活上の心構えを理解している。
	学級生活のめあて (1)ウ	・事前アンケート「こんな学級にしたい」を行い、学級活動委員会が学習面、生活面、人間関係等の柱を立て、整理する。 ・整理された内容をもとに、誰もが覚えやすく、印象に残るキーワードを出し合う。	よりよい学級の生活づくりに関心を持ち、話し合い活動に積極的に参加しようとしている。	学級の一員として、互いのよさを生かしながら、学級生活のめあてについて考え、判断し、実践している。	学級の課題を把握するとともに、学級活動の意義や話し合い活動の仕方を理解している。

4月	学級の組織をつくろう (1)イ	・事前に当番や教科係、生徒会関連の委員会の一覧表を見ながら活動内容と目的を理解する。 ・事前アンケート「こんな係をやってみたい。こんな係があったらいいな」を行うとともに、上級生の体験を取材する。 ・学級としてつくる係、当番のローテーションの仕方等を話し合う。	学級内の組織に関心をもち、他の生徒と協力しながら主体的に活動に参加しようとしている。	学級の実態を踏まえ、よりよい学級づくりに必要な係活動を考え、判断し、実践している。	学級内の組織をつくる必要性やねらい、活動の内容や方法を理解している。
	学ぶことの意義を考えよう (3)ア	・事前に保護者や身のまわりの人に「学ぶことの意義」についてアンケートを行う。 ・将来の生活をイメージさせ、「何のために学ぶのか」について自分の考えをまとめておく。 ・グループ内の意見交換で自分なりの考えを発表する。	自己の将来の生き方に関心をもち、保護者や身のまわりの人から積極的に学ぼうとしている。	アンケート調査の結果や保護者の意見を参考に、自分の将来について考え、将来に向けて、日々実践している。	学ぶことの意義について、自己の将来の生き方と関連付けて、理解している。
5月	楽しい校外学習にしよう (1)ウ	・帰りの会で、実行委員から遠足の概要を聞く。 ・学級としての目標、活動内容、準備等を話し合う。 ・準備すべき子とのリストを見ながら、協力して準備を進める。	校外学習に向けた事前の活動に関心をもち、事前の活動に主体的に取り組もうとしている。	校外学習に向けた学級としての目標や必要な係などの準備について考え、判断し、実践している。	校外学習の意義やねらい、学級としての目標をつくる必要性や係の活動内容を理解している。
	テストの準備と受け方 (3)イ	・上級生等の体験談などを通して、テストの意義を理解する。 ・グループで各教科の効果的な学習方法を調査する。(教師、上級生、家族、地域の方々など) ・調査結果を発表し合う。 ・調査内容をもとに自分なりの学習計画を立てる。 ・教師の助言を聞き、学習計画を見直す。	はじめてのテストに向けた取組に関心をもち、家庭での学習習慣、学習方法を改善しようとしている。	他の生徒の学習方法に学びながら、自分にあった家庭学習の方法を考え、判断し、実践している。	主体的に学習に取り組むことの大切さ、自分にあった学習方法を理解している。
	学級の問題点を解決しよう (1)ア	・事前アンケート「今の学級のよさと問題点」をまとめる。 ・アンケートをまとめ、学級全体でとりくむべきことは何か話し合う。 ・具体的な解決策を話し合い、努力目標を立てる。	学級の一員である自覚をもち、積極的に学級の問題点を解決しようとしている。	他者の個性を尊重し、学級の問題の解決に向けた具体的な解決策を考え、判断し、実践している。	自他の個性を理解しているとともに、学級活動の意義や話し合い活動の仕方を理解している。
6月	楽しい給食と配膳の方法 (2)ケ	・これまでの給食は楽しく食べられているか、配膳の仕方はどうかを振り返る。 ・より楽しい給食と配膳の工夫について話し合う。 ・委員や係として取り組みたい内容を話し合う。 ・話し合った内容をまとめて、実践内容を決定する。	学級の給食が残らないための工夫について積極的に考え、改善しようとしている。	楽しい給食が望ましい人間関係をつくることを理解し、判断し、実践している。	給食を楽しく残さずに食べることが、自他の健康につながっていることを理解している。

(2) 生徒会活動

ア 生徒会活動の評価規準例

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
生徒会の計画や運営	生徒会活動の企画や運営、委員会の活動などに関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に取り組もうとしている。	全校的な視野に立って、諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践している。	生徒会の規約や組織の改廃や役員を選出する意義、各種委員会への参画の仕方について理解している。
異年齢集団による交流	各種の委員会活動や異学年集団で実施する行事などに関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に取り組もうとしている。	上級生としての責任や下級生としての役割などについて考え、異年齢集団による交流活動の中で協同して実践している。	異年齢集団による交流活動の意義や参画の仕方について理解している。
生徒の諸活動についての連絡調整	他学級や部活動などとの連絡調整について自主的に取り組もうとしている。	校内の様々な活動についての連絡調整の方法などについて考え、判断し、協同して実践している。	生徒会がもつ、校内の様々な活動についての連絡調整の機能について理解している。
学校行事への協力	それぞれの行事の趣旨を理解し、他の生徒と協力して、自主的に取り組もうとしている。	学校や学年の一員としての自覚をもち、それぞれの行事の意義について考え、判断し、実践している。	学校行事により、よりよい校風を確立することの意味や学校の伝統について正しく理解している。
ボランティア活動などの社会参加	地域のボランティア活動などへの参加について、自主的に取り組もうとしている。	社会の一員であるということの自覚をもち、ボランティア活動等の意義について考え、判断し、実践している。	ボランティア活動や地域の人々との交流など、社会への参画の仕方について理解している。

イ 生徒会活動の評価計画作成の留意点

生徒会活動は、教師の適切な指導の下に生徒の自発的、自治的な活動が展開されていく。したがって、教師の観察評価を基盤としながらも、生徒相互の評価や地域からの評価などを取り入れることが考えられる。学級担任以外の評価が中心となるため、自己評価カードや委員会ノートにより生徒の活動の状況を適切に評価し、次の指導に生かしていく。

(3) 学校行事

ア 学校行事の評価規準例

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
儀式的行事	行事を節目としたこれからの生活に関心をもち、学校や学年の一員として厳粛な雰囲気の中で儀式的行事に取り組もうとしている。	学級や学校の一員とし自覚をもち、新しい生活における自己の生き方や、集団の場における規律などについて考え、判断し、実践している。	儀式的行事の意義やその場にふさわしい参加の仕方などについて理解している。
文化的行事	文化や芸術、平素の学習活動などに関心をもち、互いの努力を認め合い、自己を伸ばそうとする意欲をもって、自主的、自律的に文化的行事に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自覚をもち、美しいものや優れたもの、自他のよさや自己の成長などについて考え、判断し、協同して実践している。	文化的行事の意義や、活動の仕方、発表や鑑賞の仕方などについて理解している。
健康安全・ 体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、運動などに関心をもち、自主的、自律的に健康安全・体育的行事に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自覚をもち、安全な行動、規律ある集団行動の仕方などについて考え、判断し、協同して実践している。	健康安全・体育的行事の意義や、心身の健康の保持増進、安全な生活、体力向上の方法などについて理解している。
旅行・集団 宿泊的行事	自然や文化などに関心をもち、人間的な触れ合いや信頼関係を深め、自主的、自律的に旅行・集団宿泊的行事に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自覚をもち、平素と異なる生活環境の中での行動の在り方や人間としての生き方などについて考え、判断し、協同して実践している。	旅行・集団宿泊的行事の意義や、望ましい集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解している。
勤労生産・ 奉仕的行事	将来の社会人としての生き方や社会奉仕などに関心をもち、自主的、自律的に勤労生産・奉仕的行事に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自覚をもち、勤労や共に助け合って生きることの尊さ、人間としての生き方などについて考え、協同して実践している。	勤労生産・奉仕的行事の意義や勤労及び職業、ボランティア活動などの社会奉仕の仕方などについて理解している。

イ 学校行事における評価計画作成の留意点

学習指導要領では、学校行事の目標を達成するために五種類の行事が示されている。各学校においては、それぞれの学校行事のねらいを明確にして、評価する必要がある。自己評価カードや感想文、他の教師からの評価等から集団及び生徒一人一人の発達や変容について適切に評価していく。言語活動の充実を図る観点から体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を評価計画に位置付けて、積み重ねていくことが重要である。

4 生徒指導の機能の一層の充実

現在、学校や学級の生活に十分適応することができないなどの理由から、学習への意欲を失ったり、人間関係にかかわる問題を抱えたりする生徒が見られる。また、進路の選択に当たって、目的意識をもたず、適切に対応できない生徒も見られる。こうした課題を踏まえ、学校生活における生徒一人一人の自己実現を進め、自己指導能力の育成の観点から生徒指導の機能の一層の充実とともに、ガイダンスの機能の充実が求められている。

具体的には、学習活動など学校生活への適応、好ましい人間関係の形成、学業や進路等における選択、自己の生き方などにかかわって、生徒がよりよく適応し、主体的な選択やよりよい自己決定ができるよう、適切な情報提供や案内・説明、活動体験、各種の援助・相談活動などを学校として進めていくものである。指導に当たっては、生徒指導の機能やガイダンスの機能を充実するよう、学級活動等の指導を工夫することが望ましい。

- 入学時、新学期開始時期において、教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮するとともに、生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組むことができるよう創意工夫する。
- 新たな学習や各種の学習活動の開始時期などにおいて、生徒がこれから始まる学習に対して積極的な意欲をもち、主体的に活動に取り組むことができるよう各教科等において十分に配慮する。
- 進路の選択に関して、生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の生き方を考え、卒業後の進路を主体的に選択し、さらに積極的にその後の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てるよう配慮する。

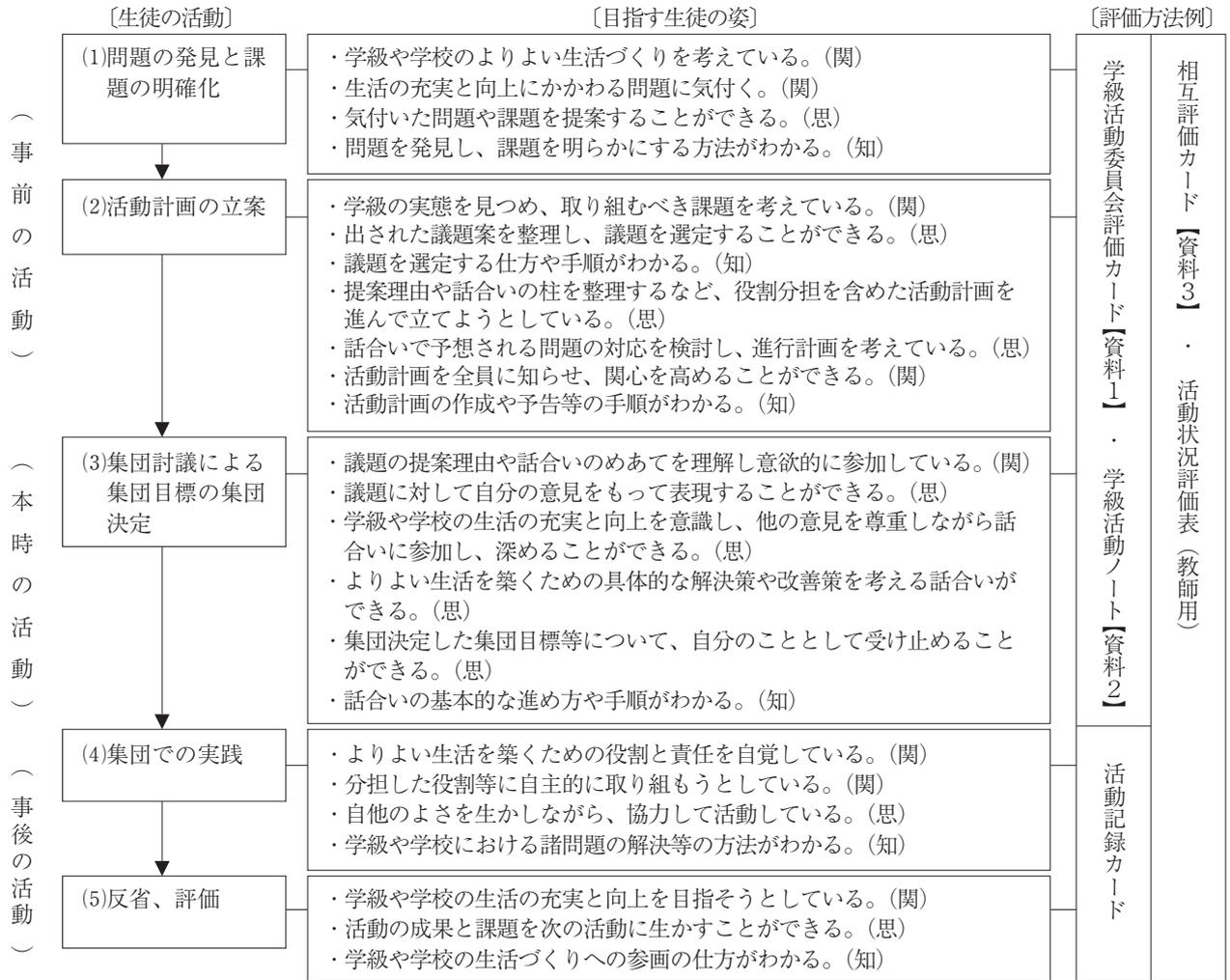
第3 各内容の指導と評価の実際

1 学級活動の評価例

【活動内容(1)の評価計画と実際】

(1) 評価計画例

※評価の観点は以下のように略して表記する。次頁以降も同様である。
 (関) … 集団活動や生活への関心・意欲・態度
 (思) … 集団や社会の一員としての思考・判断・実践
 (知) … 集団活動や生活についての知識・理解



(2) 評価を指導に生かすポイント

指導計画	指導方法	個人の変容	集団の変容
・生徒の発達段階や学級の実態に応じて自発的・自治的な活動を助長するような計画を立てる。	・学級活動委員会や事前から事後までの活動での適切な指導方法の工夫改善を図る。	・集団の一員として、互いのよさを認め合い、学級や学校生活の充実と向上を目指して活動できる態度の形成を図る。	・望ましい人間関係を築きながら、協力してよりよい学級や学校の生活づくりに参画できるよう集団活動の活性化と集団の質の向上を図る。

(3) 実際の評価事例(議題 体育祭に向けての活動計画を考えよう) ※埼玉県中学校教育課程指導資料 p202参照

ア 本時の展開における評価

	活動内容	目指す生徒の姿	資料等
活動の開始	1 開会のことば	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の話合いの意義や目標を理解し、進んで活動しようとしている。(関) 	・アンケート集計資料
	2 学級活動委員の紹介		
	3 議題の発表		
	4 提案理由の説明		
活動の展開	5 話合い	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の一員として体育祭を成功させようという視点で判断している。(思) ・自分と異なる意見のよさを認めながら話合いを進めることができる。(思) 	・学級活動ノート【資料2】 ・活動目標作成用資料
	(1) 活動目標を決めよう		
	(2) 練習内容を決めよう		
活動のまとめ	6 話合いの結果発表	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いで決まったことをもとに、目標を達成するために積極的に取り組もうとしている。(関) 	・学級活動ノート【資料2】
	7 自己評価カードの記入		
	8 感想発表		
	9 先生の話		
	10 閉会のことば		

イ 事前・本時・事後の活動の評価例

【資料1】学級活動委員会評価カードの例

学級活動委員会 (第〇回 学級活動 〇月〇日 (〇) 議題「体育祭に向けての活動計画を考えよう」)					
氏名 (〇〇〇〇) 役割 (司 会) 活動の自己評価 (◎…よくできた ○…できた △…あまりできなかった)					
質問内容		評価	質問内容		評価
事前	・出された議題案を整理することができた。	◎	話し合い	・意欲的に話し合いに臨むことができた。	◎
	・協力して話し合いの準備をすることができた。	◎		・役割を果たすことができた。	○
	・協力して活動計画を作成することができた。	○		・協力して話し合いを運営することができた。	◎
感想	「練習内容を決めよう」では、事前の学級活動委員会のときに意見を整理しておいたので、本番ではスムーズに進行することができた。また、みんなが意見を出してくれたので、司会としては助かった。このような話し合いは良いものだなと感じた。				
担任から	事前の打ち合わせが本番に役立ってよかったですね。こうした活動は大切であるとおつくづく思います。お疲れさまでした。				

【資料2】学級活動ノート例

第〇回 学級活動 〇月〇日 (〇)		〇年〇組〇番 氏名 (〇〇〇〇)	
議題 体育祭に向けての活動計画を考えよう			
提案理由 私たち3年生にとっては最後の体育祭を迎えることになりました。これまでの活動の成果を発揮し、後輩たちに誇れる体育祭にしたいと思います。………当日の活動についての約束を決めることが大切だと思い提案しました。			
話し合うこと①	活動目標を決めよう		
(私の意見)「いつでも どこでも 誰にでも率先垂範」このように考えた理由は、自分たちが満足でき、そして、後輩たちに誇れるような体育祭にするためには、やはり3年生としての自覚をもって行動することが大切であり、そのためには、今の自分たちがもっているノウハウをすべて他に見せることだと思ったからです。		(担任から) 体育祭への思いが込められていてよいと思います。発表するのを楽しみにしています。	
決まったこと	いつでも笑顔で、そして、率先垂範		
話し合うこと②	練習内容を決めよう		
決まったことについての自分の決意 中学校最後の体育祭を満足して終わられるようクラスのために一生懸命練習したいです。また、それが後輩たちへの手本となるように、すぐ先生に頼るのではなく、みんなで協力し合って活動していきたいです。全体練習では、積極的に後輩たちにアドバイスしていきます。			
話し合いを振り返って 今日の話合いの自己評価 (◎…よくできた ○…できた △…あまりできなかった)		個人の努力目標を記入させ、集団活動や生活についての知識・理解を評価します。	
・真剣に話し合いに参加することができた。 ◎		授業中の観察から、集団や社会の一員としての思考・判断・実践を評価し、活動意欲を高める助言をします。	
・司会の進行に協力して、自分の意見を発表することができた。 ◎			
・他の意見を理解して、そのよさを生かすような意見をだすことができた。 ◎			
先生から 友だちの意見を尊重して、わかりやすく発表していました。次回の話合いでも積極的に発表してください。今後、有言実行することを期待しています。			

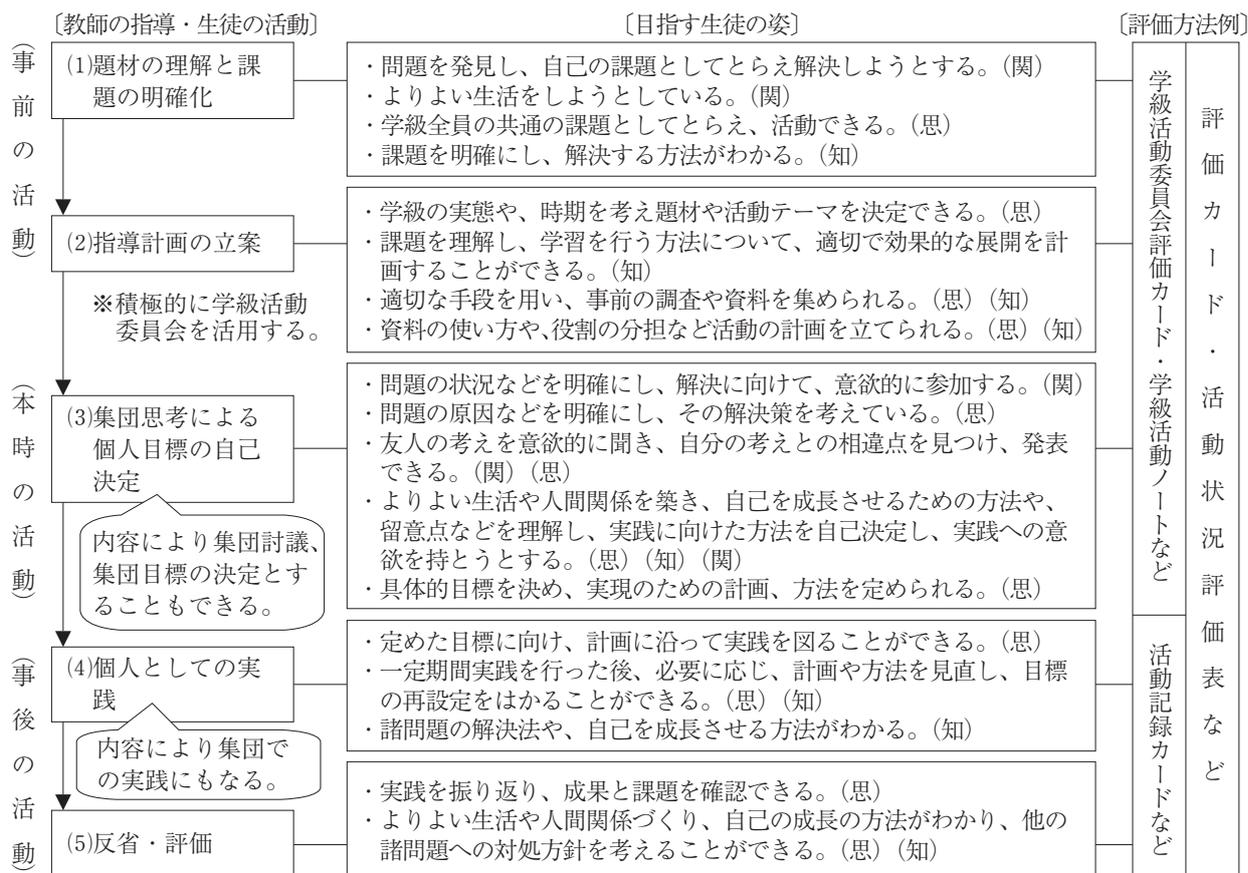
【資料3】相互評価カードの例

第〇回 学級活動のまとめ		〇年〇組〇番 氏名 (〇〇〇〇)	
活動全体の自己評価 (◎…よくできた ○…できた △…あまりできなかった)			
質問内容		自分	学級
事前	・提案理由や議題の内容についてきちんと受け止めることができた。	◎	-
	・議題に対して自分の考えをもつことができた。	◎	-
話し合い	・真剣に話し合いに参加することができた。	◎	◎
	・司会の進行に協力して、自分の意見を発表することができた。	◎	◎
	・他の意見を理解して、そのよさを生かすような意見をだすことができた。	◎	○
事後	・自分の役割と責任を自覚し、自主的に取り組むことができた。	◎	◎
	・自他のよさを生かしながら、協力して活動することができた。	○	◎
感想	自分	体育祭の練習では、みんなと協力しながら取り組みました。1年生から「先輩たちのようになりたいです。」と言われたときはとてもうれしかったです。クラスの結果は4位でしたが、一生の思い出となりました。	
	学級	クラスのみんなで声をかけて練習から本番まで活動することができたと思います。体育委員の〇〇さんは必死になってみんなに声をかけていました。〇〇さんから責任を果たすことの大切さを学ぶことができました。	
先生から	後輩たちにも熱意が伝わったのですね。この活動を機に、今後の生活に自信をもってください。		

事前、本時、事後の活動を通して、学級や学校の生活づくりにどのくらいかわることができたかを自分や学級全体の活動として評価し、次の活動への意欲付けを図ります。また、これは毎回学級活動ノートに綴じ込み、年間を通して学級や学校の生活づくりへの意識の高まりを評価する資料として活用します。

【活動内容(2)、(3)の評価計画と実際】

(1) 評価計画例



(2) 評価を指導に生かすポイント

指導計画	指導方法	個人の変容	集団の変容
・生徒の実態に即した、適切な指導計画を作成するとともに、学級活動委員会や係・委員会等への、事前、事後指導を適切に行う。	・資料を適切に活用し、生徒の自主的な活動を助長するように配慮する。学級活動委員会や係・委員会への事前、本時、事後の指導援助が適切に行われていたかを評価し、指導方法の工夫改善を図る。	・課題を正しくとらえ、自己を生かしながら、よりよい解決方法などを考え活動し、これからの自己の生き方を積極的に考えているかを評価し、一層の実践を図る。	・資料を適切に活用し、生徒の自発的、自治的な活動を助長するように配慮する。学級活動委員会や係・委員会への事前、本時、事後の指導・援助が適切に行われていたかを評価し、指導方法の工夫改善を図る。

(3) 実際の評価事例

ア 本時の展開における評価（題材1「望ましい人間関係の在り方」）

	活動内容	目指す生徒の姿	資料等
事前の指導	・「望ましい人間関係」に関するアンケートを行う。 ・1週間で学級の友人について、よさを見つけさせ、発見カードに記入しておく。	・望ましい人間関係について考え、アンケートに答えている。(関)(思) ・友人のよさを積極的に見つけようとしている。(関)	・発見カード等 ・アンケート集計
本時の活動	1 アンケート「人間関係に関する問題点」を発表する。 2 問題解決に向けて話し合う。 3 発見カードを貼り、友人のよさを見つけた時、見付けてもらった時の気持ちを発表する。 4 どうすれば、みんなが気持ちよく生活できるかを考え発表する。 5 自分のめあてを決め、発表する。	・アンケートの内容を見て、問題点を確認し、改善方法を考察できる(思) ・積極的に自分の気持ちや考えを発表するとともに、友人の意見を共感的に聞くことができる。(関) ・楽しい学校生活を送るため、互いに認め合うことの大切さを理解している。(知)	・学級活動ノート ・発見カード ・活動評価カード【資料1】 ・自己評価カード【資料2】
事後の指導	・自分のめあてが達成できるように努力しながら生活する。 ・友人のよさを見つける活動は継続し、発表したり、記入して学級の生徒が見ることができるよう工夫したりして、お互いを認め合う。	・よりよい集団生活を送れるように、言動に注意して生活できる。(思) ・肯定的に友人の言動を捉えることで、望ましい人間関係が生まれ、明るい学級ができることを理解している。(知)	・学級活動ノート ・評価記録【資料2】

【資料1】事前・本時・事後の活動評価例（題材1の活動例と評価例）

よいとこ 発見カード		○月○日（月）～○月○日（金）		○年○組○番 氏名○○○○	
友人名	○○○○	○○○	この部分以外は事前に書かせておき、意図的に指名することもできます。		○○○○
〈友人のよさを見つけたときの気持ち〉 できるだけ多くの友だちのよさを見つけようと思いました。見つけるたびに、何だかうれしくなりました。また、普段はあまり話さない友だちのよさも見つけることができ、これからもっと仲良くなれるように思いました。			〈友人が見つけてくれたよさをみた気持ち〉 こんなにたくさん自分のよさを見つけてくれてうれしかったです。自分では意識していないところもよさだと思ってくれることが分かりました。これからも、このよさを伸ばしていけるように、生活していきたいです。		
気持ちよく生活するためにあなたはどのような生活を送りますか。〈自分のめあて〉 友だちには、みんなよさがたくさんあると思いました。これからも、気持ちよい学校生活を送れるように、私は、毎日5人以上の友だちに声をかけ、学びあいながら生活するようにします。			担任から 積極的に友人のよさを見つける優しい気持ちをもっていますね。また、友人たちも○○さんのよさをたくさんみつけてくれました。これからの○○さんにも期待しています。		
○○さん	○○さん	○○さん	○○さん	○○さん	○○さん
いつ					
清掃時間	全員の共通の活動として、よさを見つけたときに、具体的にどんな場面だったのかを記録させていきます。帰りの会等で積極的に評価し、継続した取組となるよう活動意欲を高めます。				授業の様子やカードの記入内容から、意欲を高める評価をします。
どんな	どんな	どんな	どんな	どんな	どんな

【資料2】自己評価と評価記録

「気持ちのよい学校生活」記録カード ○組○番 ○○○○

積極的に自分の考えを発表することができた。	○	〈活動を振り返って〉 ・一人一人が自分で決めためあてを取り組めば、楽しい学級になると思いました。また、友だちのよさは、これからもたくさん見つけてきます。 〈担任から〉 ・これからさらに気持ちのよい生活が始まりそうです。みんなで力を合わせてがんばりましょう。
意見をしっかりと聞き、判断することができた。	◎	
自分のめあてを決めることができた。	◎	
進んで友だちのよさを見つめることができた。	◎	

（◎よくできた ○できた △もう少し）

項目はなるべく簡単に評価しやすいものにします。

次の実践活動につながるように、評価します。

イ 本時の展開における評価（題材2「不得意教科の克服」）

	活動内容	目指す生徒の姿	資料等
事前の活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習に関するアンケートを行う。 集計結果の発表の準備を行う。 得意・不得意教科のグルーピングをする。 卒業生のインタビューを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の様子を、客観的に分析し、アンケートに真剣に答えている。(思) (関) 集計作業に進んで参加しようとしている。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート集計資料
本時の活動	<ol style="list-style-type: none"> アンケート「学習に関する問題点」を発表する。 グループで学習面の困っていることへの対策を話し合い発表する。 教科ごとに苦手な原因を確認する。 教科ごとに、得意な生徒の学習方法を集約し、発表する。 卒業生の「不得意教科の克服法」についてのビデオを視聴する。 意見を参考にしながら、自分の不得意教科を克服する学習方法を具体的に考える。 自分の不得意教科克服法を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの内容を聞いて、自分の学習の問題点を認識し、改善方法を考察できる。(思) 意欲的に話し合いに参加し、周囲の意見を参考にしながら、自分の考えをもつことができる。(関) 自分の苦手教科の克服方法を理解し、それを実践するための、学習計画などを考え、実践しようとする。(知) (思) 自分の考えを積極的に発表できる。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノート 学習カード【資料3】 活動評価カード【資料4】
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の不得意教科克服法を学級通信などで学級に伝え、お互いの工夫を認め合う。 実際の学習がどのように進められているか、個人ノートや教育相談などで確認する。 保護者にも生徒の様子を観察してもらい、向上した点をほめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の向上や苦手科目の克服について、計画をたてて、実践をしている。(思) 自分にあった学習方法を具体的に理解し、実行しようとする。(知) (思) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノート 評価記録【資料5】

【資料3】事前・本時の活動評価例（題材2の活動例と評価例）

題材 「不得意教科の克服」	○年○組○番 氏名 ○○○○
① アンケートの集計結果と自分の学習状況を比べ改善するところを書いてみよう。	
授業の取り組みはよいと思うが、家庭での学習時間や学習日数が友だちより少ないと思った。予習や復習にもう少ししっかりと取り組まなければいけないと思った。	
② アンケートで出された学習の悩みについて考えてみよう。	アンケートで出された代表的な悩みとそれについての自分の考えを記入しておきます。班では簡単に話し合わせ、全体で発表します。
(ア) 家庭での学習時間がとれない。	
自分の考え 自分も部活動があり、同じような悩みを感じていた。どうすれば学習時間を増やせるのか、友だちの意見を聞いてみたい。	グループで話し合った意見 日常生活を見直して、計画的に時間を使うようにすると、無駄なく、時間を有効に使った学習をすることができる。時間だけでなく、学習の方法を工夫することも大切。
③ 不得意教科の克服方法を考えよう。	
社 会	特に歴史の年代が苦手。いつ、何があったのかを覚えることができない。
今日から実践する学習方法 年表を作って学習するとよいことがわかった。まず、重要事項の年表を作り、出来事の内容と関係した人物や場所を確認してから、順番を覚えていく。今日からしっかり学習して90点以上を目指す。	
卒業生のビデオを見て… 特にできない日は無理しないけれど、それを二日続けない事が大切だということが印象に残った。苦手科目にも学習計画を立て今日から取り組むぞ。	担任から 今までの意欲付けになるような助言をします。保護者にも、面談などで知らせるようにします。 今まで以上に、学習の習慣化や計画が大切なことがわかったようですね。粘り強く家庭でも取り組み、不得意教科の克服を目指しましょう。応援しています。

【資料4】自己評価・相互評価カード例

評価カード(活動全体の自己評価と相互評価…A よくできた B できた C あまりできなかった)

事前	アンケートの内容をしっかりと考え、答えられた。	A	〇〇さんの今日の学習	from〇〇〇〇
話し合い	聞きたいことや意見をもって授業に臨めた。	B	学習の内容を理解していた。	A
事後	自分の考えを積極的に発言できた。	B	周囲の意見を聞いていた。	A
	友人の意見をしっかりと聞くことができた。	A	自分の考えを発言していた。	B
事後	意見を調整しながら、まとめていくことができた。	B	協力し、考えをまとめていた。	A
	他の意見などを自分の考えに生かすことができた。	A	先生から 周囲の意見をしっかりと聞き、自分に生かそうとしていました。これからの自分の学習もよく考えています。	
事後	自分の考えを実践しようとする意欲がもてた。	A		

【資料5】教師の補助簿やポートフォリオによる評価記録の活用例

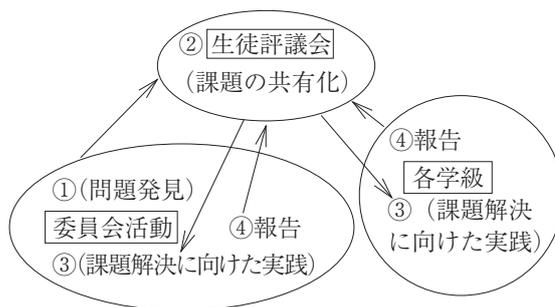
評価項目は題材により変わっても可です。	A	B	C	A…集団活動や生活への関心・意欲・態度 B…集団や社会の一員としての思考・判断・実践 C…集団活動や生活についての知識・理解など観点に基づく						
	興味関心をもって活動している	活動に協力している	発言をしっかりと聞いている		自分の考えをもち発言している	他の意見を参考にしている	生活の向上を目指している	学習の内容を理解している	生活に生かす方法を理解している	
氏名 ○○	◎	○	△	○	○	○	○	○	目立った活動の様子 取り上げるべきよい点	指導に関すること
△△	必ずしもすべての項目を評価するとは限りません。								興味をもち積極的に発言している	思いつきでの発言が多い。以後も観察、指導する

題材名「中学校の学習方法について考えよう」	
学習の記録 (1年)	○組○番〇〇〇〇
集団活動や生活への関心・意欲・態度	A
集団や社会の一員としての思考・判断・実践	A
集団活動や生活についての知識・理解	B
評価・所見…学習に積極的に参加した。自分にあった学習方法を、友人の意見を参考にしっかりと考えていた。	
取組を簡単に記録します	
事後の様子・成長 日常の授業に積極的に取り組むようになってきた。徐々に成果が上がっている。	
題材名「不得意教科の克服しよう」	
集	学級で生徒の成長を感じたときに記録していきます。記録を蓄積しておき、学期末や年度末の評価のまとめとして使用します。

2 生徒会活動の評価例

(1) 評価計画例（「全校で取り組む校内美化活動」委員会活動と生徒評議会・各学級との関連の例）

- (例) ① 定例の委員会活動において、学校生活上の課題
「更なる校内美化」(美化委員会)の必要性に気付く。
①→② 生徒評議会において課題の共有化を図り、全校生徒
で取り組むことを確認する。
②→③ 各委員会や学級において、課題解決に向けて話し
合い、実践する。「全校で取り組む校内美化活動」
④ 成果の報告「校内はきれいになったか」
①～④の各場面で評価を行う。



〔生徒の活動〕	〔目指す生徒の姿〕	〔評価方法例〕
① 定例の委員会活動にて (問題発見と課題の明確化) ・学校生活上の課題についての 気付きと提案 ・課題の認識と選定	・課題意識をもって学校生活を送り、よりよい学校にするた めに委員会を活用している。(関) ・気付いた課題を分かりやすく提案できる。(思) ・他人の意見にも耳を傾け、理解しようとしている。(関) ・課題となる意見から委員会内で取り組むものと、生徒評議 会にかけ全校生徒で取り組みたいものを選定できる。(思)	委員会評価カード 教師の観察 (補助簿の活用)
② 生徒評議会にて (課題の共有化) ・各委員会、役員からの提案 ・全校で取り組む課題の協議	・活動のねらいや提案理由を理解し、自分たちの課題として、 解決のための手立てを考え発表できる。(思) ・意欲的に協議に参加し、全校生徒で取り組む問題として課 題を理解している。(関) ・各委員会や各学級に課題を伝える準備ができています。(知)	生徒評議会評価 カード 教師の観察 (補助簿の活用)
③ 定例の委員会活動にて (解決のための話し合い・実践) ・各委員会が取り組む校内美化 ・実践の振り返り	・全委員会で課題を理解し、「校内美化のために、私たちの委 員会では何ができるか」を協議し、具体的に決定できる。(思) ・全委員会の具体的決定事項を実践している。(思) ・「成果と反省」が明確になっている。(思)	委員会評価カード 教師の観察 (補助簿の活用)
③ 各学級にて (学級活動等) (解決のための話し合い・実践) ・生徒全員で取り組む校内美化 ・実践の振り返り	・学級全員が課題を理解し、「校内美化のために、学級として 何ができるか」を協議し、具体的に決定できる。(思) ・学級全員が具体的決定事項を実践している。(思) ・「成果と反省」が明確になっている。(思)	学級活動ノート 教師の観察 (補助簿の活用)
④ 生徒評議会にて (実践結果と成果・反省の報告)	・各委員会、各学級の「成果と反省」を発表できる。(思) ・それぞれの取組の結果、「校内美化」は日常の清掃活動での 毎日の積み重ねが大切であることに気付いている。(知)	生徒評議会評価 カード 教師の観察

(2) 評価を指導に生かすポイント

指導計画	指導方法	個人の変容	集団の変容
・各活動のねらいと具体的な 活動内容、活動を通して生 徒の何をはぐくむかが明確 である。 ・評価の対象、時期、方法 (誰に、いつ、どんな方法 で)が明確である。	・指導計画を教師が共通理解し、評価規準や評価方法が統 一され、委員会ごとに指導の差が生じないような配慮が なされている。 ・生徒評議会を生徒をまとめるための中心組織として 位置付けている。 ・外部の方の声(評価)を生徒に伝える方法(朝礼、学校 だより、生徒会だより等)が整っている。	・生徒一人一人が生徒 会の一員であることを自覚し、声を掛け 合い、協力し合いなが ら活動に参加して いる。	・集団としての高ま りを具体的に確認 し、次の活動につ なぐ準備ができて いる。

(3) 実際の評価事例

ア 定例の委員会の評価 【委員会評価カード】

第〇回 (美化) 委員会 〇月〇日 〇年〇組 名前〇〇〇〇	
(美化) 委員会の活動目標 ・校内をきれいに保つために、みんなに声をかけます。 ・清掃用具を整えます。	
評価項目	自己評価
1 今日のテーマや活動内容が理解できた。	Ⓐ B C D
2 テーマに沿って考え、発表することができた。	A Ⓑ C D
3 他人の意見を聞き、それについて考えることができた。	Ⓐ B C D
4 決定に従い、次の行動が分かる。	A Ⓑ C D
5 今日、決定したこと 校内美化活動に全校(各委員会、各学級)で取り組むために、生徒評議会に提案する。	
6 全体を振り返っての感想 落ちていたゴミを拾う人がいなかったり、普段のそうじもあまり丁寧にできていないことに気付いていなかった点が反省です。	
7 担任から 担当(△△) 他人の発言に耳を傾けることの大切さがわかりましたね。	

・委員会の活動目標は毎回確認します。
・委員会評価カードは毎回1枚ずつ記入し各自でファイルします。個人の変容を知る手掛かりになり、指導要録記載のための資料となります。
・評価項目の1は(関)、2, 3は(思)、4は(知)の評価です。

・「感想」は文章表記の欄を作ることで、具体的な生徒の気持ちを読みとることができます。
・担任以外の教師のコメントを生徒は新鮮に感じます。積極的に励ましの声掛けをします。

イ 生徒評議会の評価 【生徒評議会評価カード】

第〇回 生徒評議会 〇月〇日 (美化委員会) 代表 名前〇〇〇〇	
生徒評議会のねらい 私たちは全校生徒の代表として、みんなが気持ちよく、充実した学校生活を送れるように考え、活動します。	
評価項目	自己評価
学級、委員会、部活等の代表として、	
1 代表の意識をもって話し合いに参加した。	Ⓐ B C D
2 代表としての発言、提案をすることができた。	A Ⓑ C D
3 全校で取り組む課題を選ぶことができた。	Ⓐ B C D
4 学級、委員会、部活等に戻って、課題を説明できる。	Ⓐ B C D
5 今日の決定事項 校内美化活動週間をつくり、全校で美化活動に取り組む。	

・このカードも、委員会評価カードと同様に自己評価カードとして用い、個人の変容を知る手掛かりや、指導要録記載のための資料となります。
・評議員は所属する団体の代表である意識を常にもたせる指導が大切です。
・評価項目の1は(関)、2, 3は(思)、4は(知)の評価です。

6, 7は委員会評価カードと同じ。この後、再び委員会活動や学級活動の場において、生徒評議会でも決定した課題「校内美化のために私たち(委員会、学級)は何ができるか」を話し合い、実践に結び付ける。以下は事後の評価カード。

ウ 「全校で取り組む美化活動」を終えて

評価項目	自己評価
1 校内はきれいになった。	Ⓐ B C D
2 (美化)委員として、決定した仕事に責任をもって取り組むことができた。	Ⓐ B C D
3 美化活動期間後も学校をきれいに保つにはどうすればよいか分かっている。	A Ⓑ C D
4 この取組を振り返っての感想 委員会の活動もクラスの取組もみんなが一生懸命な様子が見られた。	

・事後の評価は、1のような全体が「できた、できない」(思)の評価、2の「あなたはできたか」(関・思)の評価、3の「次はどうする」(知)の評価を基本とします。
・各種の活動は、毎日の積み重ねが大切であることに気付かせます。

エ 教師の観察による評価

自発的、自治的な活動である生徒会活動は、できるだけ生徒の手で運営させる。担当の教師はその様子を観察し、生徒の活動の過程と結果について補助簿を活用しながら評価する。

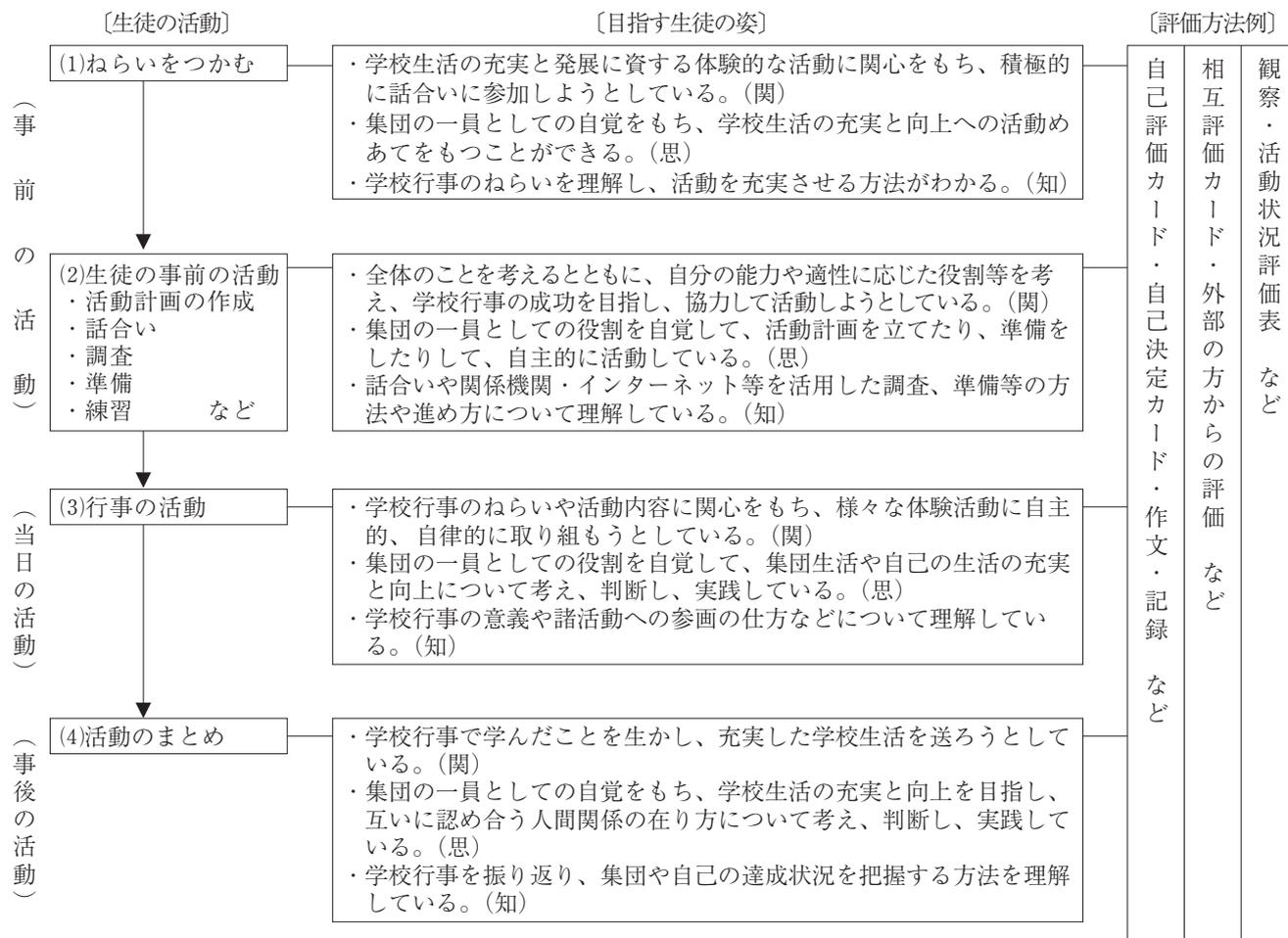
【教師用補助簿(生徒の観察カード)】

(美化)委員会 〇年〇組		生徒氏名 〇 〇 〇 〇		評価者 △△△△
活動日	関・意・態	思・判・実	知・理	活動の様子
□/□	◎	○		提案を支持し、かつ、じっくり考えた前向きな発言がよかった。
□/△		◎	○	

生徒一人につき1枚のカードをつくります。
評価者(教師)は、評価済みのカードを担当に手渡します。

3 学校行事の評価例

(1) 評価計画例



(2) 評価を指導に生かすポイント

指導計画	指導方法	個人の変容	集団の変容
・学校の創意工夫を生かし、学校の実態や生徒の発達段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする。また、全職員がかかわって、3年間を見通した適切な指導計画を作成する。	・より多くの自主的、実践的な活動が体験できる場や年齢を異にする生徒が協力し合って活動できる場を設定する。さらに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動の場を設定する。	・それぞれの学校行事での生徒の活動状況について、継続的、多面的に分析し、その生徒の変容を的確に把握できるようにする。	・生徒が互いに協力し合って、よりよい伝統や校風を築こうとする態度を育てることができるようになる。

(3) 実際の評価事例

ア 儀式的行事の評価（「卒業式」2学年）

	活動内容	目指す生徒の姿	資料等
事前の活動	・歌（国歌、校歌、式歌）等の練習 ・卒業式予行 ・卒業式の会場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式のねらいを理解し、歌（国歌、校歌、式歌）等の練習や卒業式予行、会場づくりに意欲的に参加している。(関) ・学校や学年の一員としての自覚をもち、集団の場における参加の仕方について考え、判断し、実践している。(思) 	
当日の活動	・卒業式への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生への感謝の気持ちをもって卒業を祝うとともに、よい伝統や校風を引き継いでいこうとする意欲を高めている。(関) ・卒業式のねらいやその場にふさわしい参加の仕方などを理解している。(知) 	
事後の活動	・卒業式の評価 ・新しい学年への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式の評価を踏まえ、1年間の成果と課題を見つめるとともに、新しい学年への展望をもち、意欲を高めている。(関) 	【資料1】

【資料1】 事後の活動に利用する自己評価カード例

卒業式を振り返って		2年〇組 〇番 氏名〇〇〇〇〇
1 次の内容について、[Aよくできた Bできた Cあまりできなかった Dできなかった]で自己評価しよう。		
①卒業式予行や会場づくり、片付けに意欲的に取り組みましたか。	A B C D	Ⓐ B C D
②卒業式に節度ある態度で参加できましたか。	A B C D	Ⓐ B C D
③歌（国歌、校歌、在校生の歌）をしっかりと歌うことができましたか。	A B C D	A Ⓑ C D
④卒業生への感謝の気持ちをもって参加し、卒業を祝うことができましたか。	A B C D	Ⓐ B C D
⑤卒業生の姿を見て、よい伝統や校風を引き継いでいこうという気持ちがありましたか。	A B C D	Ⓐ B C D
2 卒業式の感想をまとめよう。 3年生が明日からいないと思うと寂しい。多くの3年生が泣いているのを見て、中学校生活にたくさんの思い出があるのだろうなと思った。歌をもう少し大きな声で歌えばよかった。		
3 来年はよいよ皆さんの卒業式です。どのような卒業式にしたいですか。 後輩や先生方から惜しまれながら、でも、祝福されながら卒業したい。そして、自分自身も涙を流せるような感動のある卒業式にしたい。		
4 そのために、これからの1年間、どのようなことを努力しますか。次の観点で3つ書いてください。		
①学習 進路の希望が実現できるように、授業を真剣に受け、家庭学習を充実させたい。	
②生活 3年生としてリーダーシップをとれるようにしたい。特に、思い出に残る行事になるように頑張りたい。	
③部活動・委員会活動 部活動では、県大会出場できるように頑張りたい。委員会活動では、委員長になって責任を果たしたい。	
担任から しっかりとした態度で卒業式に参加していました。来年の卒業式を感動的なものにするために、3年生としての自覚をもって様々なことに頑張ってください。		

・卒業式終了後、事前の活動と当日の活動を振り返って記入させます。
・自分自身の卒業式をどうしたいかという思いをもたせるとともに、そのためにどのようにして今後の学校生活を向上させたらよいかを考えさせる項目を立てます。
・学年集会や学年だより等で新しい学年への展望として紹介して、よりよい伝統や校風を築こうとする意欲を高める手立てとします。

イ 旅行・集団宿泊的行事の評価（「修学旅行」3学年）

	活動内容	目指す生徒の姿	資料等
事前の活動	・実行委員会の組織と活動計画の作成 ・学級内での班や係分担などの決定 ・係ごとの仕事分担や活動計画の作成 ・班ごとの見学コースの作成	・人間的な触れ合いや信頼関係を深め、自主的、自律的に修学旅行事前学習に取り組もうとしている。（関） ・学年や学級の一人としての自覚と役割意識をもち、自分のとるべき行動を考え、判断し、協同して実践している。（思）	【資料2】
当日の行動	・1日目…奈良での行動 東大寺、法隆寺、奈良公園等の見学 ・2日目…京都での行動 清水寺、金閣寺、平等院等の見学 ・3日目…京都での伝統工芸体験学習 湯飲みの絵付け、染め物等	・自然や文化などに関心をもち、人間的な触れ合いや信頼関係を深め、自主的、自律的に修学旅行に取り組もうとしている。（関） ・事前の計画に従い、平素と異なる生活環境の中での行動の在り方について考え、判断し、協同して実践している。（思） ・修学旅行の意義や、望ましい集団生活の在り方、修学旅行での約束、公衆道徳などについて理解している。（知）	【資料3】 【資料4】
事後の活動	・活動のまとめと評価	・修学旅行の成果を生かし、積極的に集団生活や自己の生活の充実と向上に取り組もうとしている。（関） ・集団の一人としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の向上について考え、判断し、実践している。（思）	【資料5】

【資料2】

事前の活動に利用する自己評価カード例

これまでの取組を振り返って（修学旅行の事前学習）		2年〇組 〇番 氏名〇〇〇〇〇
1 あなたは修学旅行でどんなことを学びたいですか。	学級や学年の団結力を高めたい。古都の文化に触れ、歴史など知識を深めたい。	
2 クラスや係、班での話し合いを振り返って取組状況はどうでしたか。理由も含めて書いてください。	班長として、話し合いの司会を頑張った。自分の意見も積極的に発表できた。	
3 修学旅行の事前学習を通して、みんなの役に立っているという実感がもてましたか。	とても 少し あまり 全く	
4 修学旅行を成功させるために、どんな気持ちで取り組むことが大切だと思いますか。	みんなの約束をみんなで守ること。	
5 そのために、修学旅行で具体的にどんなことを努力しますか。3つ書いてください。	①友だちと協力して行動する。 ②きまりとマナーを守って行動する。 ③古都の文化に触れ、歴史などの知識を深める。	
担任から		

・修学旅行の事前学習の取組の様子や修学旅行のめあてを具体的に記入させます。
・しおりの中に、4、5の内容を記入できる欄を作成し、当日の活動を自己評価するときの項目とします。【資料3】

【資料3】

しおりに入れる自己評価カード例

1 修学旅行を成功させるために大切なこと
(みんなの約束をみんなで守ること。)

2 そのために努力すること (めあて)
めあて① [友だちと協力して行動する。]
めあて② [きまりとマナーを守って行動する。]
めあて③ [古都の文化に触れ、歴史などの知識を深める。]

3 めあての自己評価 (◎よくできた ○できた △できなかった)

	1日目	2日目	3日目
めあて①	◎	◎	
めあて②	○	◎	
めあて③	○	◎	
感想 反省	電車の中でうるさくなっ てしまった。明日は気を	昨日の反省を生かして、 今日はしっかりと行動で	

- ・事前学習で決めためあてをもとに、体験活動を振り返り、文章でまとめる項目を立てます。
- ・しおりへ記入する時間を確保するとともに、夜の集いで発表するなど、生徒は3日間の修学旅行において、随時自己評価や相互評価を行います。

【資料4】 外部の方 (宿泊施設) による評価カード例

〇〇ホテル 御中

×× 中学校修学旅行実行委員会

アンケートのご協力について

このたびは、我々 ×× 中学校の修学旅行において (中略) 今後の学校生活や社会生活での活動に生かしていきたいと思っておりますので、以下のことについてお気づきの点をご記入ください。ご協力の程、よろしくお願ひします。

1 あいさつについて
多くの生徒さんが気持ちよくあいさつをしてくださり、我々も温かい気持ちで3日間を過ごすことができました。

2 部屋の使い方について
ルームキーを忘れて問い合わせをする生徒さんが何人かいましたが、その他は特に気になる点はありません。畳や壁も汚さずに丁寧に使っていただき、ありがとうございました。

3 食堂や大浴場の使い方について
食事の片付けも、大浴場の風呂桶等の整理整頓もきれいにしていただき、とても助かりました。

4 ロビーや廊下での過ごし方について
2日目の出発時に、他のお客様がいらっしゃるのに気づかれ、「静かにしよう。」と声を掛

- ・ホテル到着時に、実行委員がホテルの方に依頼するとともに、出発時まで記入してもらうように依頼し、外部の方による評価をしてもらいます。
- ・望ましい集団生活の在り方や公衆道徳などについて評価する項目を立てます。
- ・学年集会や学年だより等で紹介し、その反省や成果を望ましい集団生活の在り方や公衆道徳などについて理解するための手立てとします。

【資料5】 事後の活動に利用する評価カード例

- ・学級活動の時間に自己評価と相互評価をします。
- ・自己評価は家庭で記述させてもかまいませんが、相互評価の時間は確実に確保します。
- ・集団生活のルールや友人との協力などの項目を立てるとともに、修学旅行の成果や反省を日常生活に生かすという観点の項目を立てます。
- ・自己評価を読んでもらったり、班員からのメッセージを記入してもらったりして、個人の成長と集団の質の向上を図るようにします。
- ・生徒一人一人に特別活動ファイルを作成し、活動で使ったプリントなどを綴じ、適時活動を振り返らせたり、今後の活動に活用したりできるように工夫します。

始業式・入学式を振り返って	〇組 〇番 氏名 〇〇〇〇〇
離任式を振り返って	〇組 〇番 氏名 〇〇〇〇〇
今までの取組を振り返って (修学旅行の事前学習)	〇組 〇番 氏名 〇〇〇〇〇
修学旅行を振り返って	〇組 〇番 氏名 〇〇〇〇〇
<p>1 自分が立てた三つのめあては達成できましたか。また、その理由を具体的に書こう。(略)</p> <p>2 修学旅行で学んだことやよかったことを具体的に書こう。(略)</p> <p>3 修学旅行の反省点を具体的に書こう。(略)</p> <p>4 修学旅行で学んだことやよかったことや反省点を、これからの学校生活にどう生かしていきたいですか。(略)</p>	
◎班員からのメッセージ ・班長として班をよくまとめてくれたと思います。(〇〇より) ・迷わずに行動できたのは、〇〇さんの	◎担任からのメッセージ 班長の仕事にとても一生懸命でしたね。あなたのリーダーシップをこれからの学校生活に生

4 特別活動の評価と中学校生徒指導要録

(1) 「特別活動の記録」の欄の改善について

生徒指導要録における「特別活動の記録」の欄は次のように改善が図られた。

「特別活動の記録」の欄は、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入することとなった。事実及び所見については、従前どおり「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に記載することとする。

今回の特別活動の学習評価の改善は、次の「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」に沿って改善が図られたものである。

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由または病弱）中学部における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、①各活動、学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。②評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙5を参考に定める。その際例えば「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について、学校として重点化した内容を踏まえ、育てようとする資質や能力などに即し、より具体的に定めることも考えられる。

(2) 記入についての留意点

ア 「特別活動の記録」の欄について

この欄の記入に当たっては、特別活動の目標を踏まえ、各学校において評価の観点を定め、記入することになる。各観点を定める際には、その観pointsの趣旨についても十分な検討が必要になる。その際、特別活動の各活動及び学校行事のすべてを評価するための観点及び趣旨とすることが重要である。

また、各観pointsの記入の際には、教科との違いを明確にするため、「関心・意欲・態度」と省略して記入するのではなく、「集団活動や生活への関心・意欲・態度」と記入する。

実際の評価に当たっては、各活動・学校行事ごとに各学校が定めた観pointsに照らして十分満足できる活動の状況であるかを判断する。各活動・学校行事ごとに「集団生活や生活への関心・意欲・態度」、「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」、「集団活動や生活についての知識・理解」それぞれの観pointsで十分満足できるかを適切に評価し、総合的に十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

評価の観pointsについては、年度ごとに共通理解を図り、「特別活動で育てたい資質や能力」について十分話し合うことが重要である。

・評価の観pointsが変更になった場合は、空けておいたスペースに新しい観pointsを記入して、評価する。その際、学年ごとにどの観pointsで評価したのかが明確になるように、学年を記入しておく。

特別活動の記録					
内容	観 points	学 年	1	2	3
学級活動	・ 集団活動や生活への関心・意欲・態度 ・ 集団の一員としての思考・判断・実践 ・ 集団活動や生活についての知識・理解 ※観pointsが変更になることもあるので、スペースを空けておく		○		
生徒会活動					
学校行事					

特別活動の記録					
内容	観 points	学 年	1	2	3
学級活動	・ 集団活動や生活への関心・意欲・態度 ・ 集団の一員としての思考・判断・実践（1・2年） ・ 集団活動や生活についての知識・理解 ・ よりよい生活や人間関係を築く力（3年）		○	○	○
生徒会活動				○	
学校行事					

イ 特別活動に関する事実及び所見について

「特別活動に関する事実及び所見」については、生徒の成長の状況を総合的にとらえられるようにする趣旨から、各教科や総合的な学習の時間に関する所見、行動に関する所見、進路指導に関する事項、生徒の特徴・特技、部活動などと合わせ、「総合所見および指導上の参考となる諸事項」欄に記載する。

その際、次のような点に留意する。

- ・特別活動が人間形成にかかわる多様な資質や能力の育成を目標としていることから、生徒の十分満足できる活動の状況を積極的に認めるようにすることが大切である。
- ・事実の記入に当たって、例えば、学級活動や生徒会活動及び学校行事における所属する係名や委員会など分担した役割やそれらの活動状況などから集約して記入するとともに、以降の指導に特に必要とされる事項について記入する。

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	① 各教科や総合的な学習の時間に関する所見 ・各教科とも積極的に取り組み、特に理科に対する…… ② 特別活動に関する事実及び所見 ・学級活動の話合いでは、司会として積極的に活動した。またその経験を通して学級のリーダーとして自覚ある行動が見られた。

- ・所見の記入に当たっては、生徒一人一人の個性を生かし、「生きる力」をはぐくむ教育を進める観点から、生徒の活動の過程を重視したり、生徒一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に評価したりするとともに、リーダーシップや活動の意欲など、特別活動全体を通して見られる生徒の特徴や著しい進歩の状況などの事実及び所見を記入する。
- ・「特別活動の記録」の欄では○印が付かない内容であっても、生徒の成長の全体像をとらえる観点から、その具体的な事柄について必要に応じて記入する。

(3) 記入のための資料の収集

特別活動に関する一人一人の生徒の活動状況やその発達や変容については、学級担任の教師が責任をもって、その生徒に関係のある諸資料を集約し、個人記録として管理しなければならない。それらは、生徒指導要録の記載における適切な評価のための資料としての役割をもつとともに、一人一人の生徒に対する指導・援助のための資料として重要な役割をもつものとなる。

そのためにも、全校的な評価体制を確立し、組織的、計画的に評価することが大切である。補助簿は、それぞれの教師が、一人一人の生徒の日常の活動について気付いたよさや可能性など、指導の参考となる内容を随時記入していく記録である。学校の実情に合わせ、補助簿の様式や内容及び記入の方法などについて、十分に検討し、創意工夫することが望ましい。

〈一人一人の活動の記録としての補助簿の例〉

平成〇〇年度 生徒の歩み		〇年〇組〇番	氏名 (〇〇〇〇)	記録教師	学級活動	生徒会活動	学校行事
月日	生徒の活動の様子						
特別活動	5/2	・学級活動の司会としてみんなの意見をよくまとめた。		担任 ○○	○		
	6/4	・給食委員会の活動では、進んで意見を出し、調査活動の中心となって活動した。		担任 ○○		○	
	9/9	・体育祭の応援のリーダーとして団をしっかりとまとめた。		担当 ○○			○
~~~~~							
その他	6/20	・校内のゴミ拾い活動に積極的に参加した。(〇〇先生)					
	6/25	・演劇部の活動では、1年生にていねいに教えていた。(〇〇先生)					
	7/9	・三者面談では、将来はエンジニアを目指し、工業高校への進学を希望した。(担任)					

※補助簿は、生徒指導要録との関連が図れるよう、生徒のよさや可能性、興味・関心、特技、奉仕活動や表彰の事実などをその都度、記録できるよう工夫することが大切である。

〈評価のための資料としての補助簿の例〉

生徒名	内 容	学級活動				生徒会活動				学校行事			
		1学期	2学期	3学期	学年	1学期	2学期	3学期	学年	1学期	2学期	3学期	学年
▽▽▽	観点												
	集団活動や生活への関心・意欲・態度	○	○	○		○	○	○		○	○		
	集団や社会の一員としての思考・判断・実践		○	○	○	○			○		○	○	○
	集団活動や生活についての知識・理解	○		○		○	○			○		○	
	所 見	話し合い活動では、司会としてみんなの意見をよくまとめ……				給食委員会では、調査活動の中心となって活動し……				体育祭の応援リーダーとして、しっかり団をまとめ……			

- ※観点欄の○印は、各学校が定めた評価規準を満たしているとき、「十分満足できる状況にある」として判断し付ける。
- ※学年欄の○印及び生徒指導要録の○印については、年間を通じて、総合的、客観的に評価し「十分に満足できる状況にある」ものに付ける。
- ※学級活動から学校行事までの「所見」を参考にして、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に記入することとする。その際、よさや可能性に関しては、明るいか優しいとかの抽象的な表現ではなく、生徒一人一人の生活の中から、具体的な行動の特徴を取り上げていくことが大切である。
- ※記入に当たっては、担任教師は生徒一人一人の自己評価カードや感想文、また、他の教師からの評価等を参考にす。そのため、補助簿は、生徒のよさや可能性を把握し、次の活動に生かせる資料となるように積み重ねて、保管しておくことが必要である。